

第2章 自助グループ活動実態把握調査結果の検討及び今後の方向性について

・目的

平成20年度に実施した自助グループ活動実態把握調査の結果（以下「調査結果」という。）について詳細な検討を行い、自助グループの効用及び課題を明らかにすることを目的とする。特に犯罪被害者支援活動で自助グループ活動を行っている団体及びその職員・ボランティア並びに当該自助グループに参加し、又は参加していた交通事故被害者等のそれぞれの意見に基づき、検討する。

・事業の概要

検討に当たっては、犯罪被害者支援活動で自助グループ活動を行っている団体及び当該自助グループに参加し、又は参加していた交通事故被害者等のそれぞれの意見等を踏まえ、自助グループへの参加のメリット等に関する事、交通事故被害者が自助グループに参加しやすくするための開催日、開催場所その他運営方針・運営方法、構成員等の要件やファシリテーターの役割等自助グループを効果的・効率的に運営するために必要な事項等について検討し、その方向性の取りまとめを行うものとする。

そして、取りまとめ結果に基づき、自助グループの運営に従事する者や行政を始めとする関係者が今後の自助グループの活動に対して効果的な支援を行うことができるよう自助グループの運営上の課題やその解決方法等を明らかにする。

・調査の分析の方向性

1．分析の考え方

調査により得られた回答については、課題ごとにまとめることが可能と認められるものがあることから、この方向で整理する。また、この際、選択肢を示した質問に対する回答状況を示した図表とともに、特に自由記述の回答にも着目する。

さらに、調査は、行政、被害者支援に関わる団体（以下「支援団体」という。）被害者による団体（以下「被害者団体」という。）被害者支援に関わる職員・ボランティア（以下「職員等」という。）及び交通事故被害者（以下「被害者個人」という。）に対して、それぞれ実施し回答を得ていることから、課題ごとにまとめる際には可能な限り比較することとした。

2．分析結果の整理の方向性

1．の方向で分析結果を整理するに当たり、回答中、肯定的な回答については、参加者が自助グループ活動への参加を容易にするため、参加のメリットのアピール材料となること、及び課題の解決の方向性を示すこととなることに配慮する。否定的な回答については、課題を提起されたものとして整理する。

最終的には、より多くの交通事故被害者等が、自助グループを認知し、自助グループへの参加

を容易にするとともに、交通事故により被った精神的な被害から立ち直ることができるような自助グループ活動が行われることとなるような方向性を見出すことができるようにする。

上記の整理の方向性を踏まえ、次の項目に整理することとした。また、必要に応じて、更に小項目を設けることとした。

- 被害者等が自助グループに参加することのメリット等に関する事
- 自助グループへの参加者の募集・自助グループの周知等に関する事
- 自助グループの開催日時に関する事
- 自助グループの開催場所に関する事
- 自助グループの運営方法等に関する事
- 事務局・ファシリテーター等の支援者に関する事
- 自助グループの活性化に関する事
- 自助グループの規模等に関する事
- 地域性に関する事
- 費用負担に関する事

・調査の分析結果の概要

調査結果の分析の概要については以下のとおりである。なお、調査結果では、アンケートの回答者から、 . 2 の から 等について、それぞれ肯定的な意見や否定的な意見など様々な回答が寄せられているほか、支援団体、被害者団体、職員等及び被害者個人の回答者によっても、回答が異なっている（分析結果については、資料1参照のこと。なお、資料1については、内閣府交通事故被害者サポート事業HP URL <http://www8.cao.go.jp/koutu/sien/index.html>）にも掲載している。）。こうした多様な意見を示しつつ、分析を行った。

また、文中「(被害者個人・問3)」等については、平成20年度調査の対象者別の質問及び回答を示す。

1. 被害者等が自助グループに参加することのメリット等に関する事

(1) 被害者等が自助グループに参加することによる気持ちの変化等に関する事

自助グループに参加することによる気持ちの変化

被害者個人で自助グループに参加した経験を有する方に対する、「自助グループに参加することで、あなたの気持ちに変化はあったでしょうか」との質問について、気持ちのつらさや悲しみ、孤独感や孤立感、自分の考えや行動に対する自信、他人に対する信頼感、社会や世の中に対する安心感や信頼感、外出や他人と交流する機会、家族との会話や交流する機会、楽しみや喜びを感じる時間の8項目について、それぞれ回答を求めた。

その結果、「参加前よりとてもよい」「参加前よりややよい」(以下、本項において「よい」と総称する。)との回答の割合の合計は、「参加前よりとても悪い」「参加前よりやや悪い」(以下、本項において「悪い」と総称する。)との回答の割合の合計に比べて高い。しかしながら、「悪い」

に「あまり変わらない」の回答の割合を加えると、やでは、「よい」の回答の割合を上回っている（被害者個人・問3）。

職員等に対して、「自助グループへの参加者が、参加してよかったということで、よく聞くもの」との質問への主な回答をみると、「孤独感や孤立感が改善した」「気持ちのつらさや悲しみが改善した」「外出や他人と交流する機会がふえた」の順に多い（職員等・問2）。

被害者個人の回答と職員等の回答を比べると、被害者が自助グループへ参加することによる気持ちの変化については、割合は異なるものの、同様の傾向がみられる。

（被害者等が自助グループの良い面として考えていること等）

被害者個人に対して、「自助グループのよい面として、どのようなことが考えられるでしょうか」（複数回答）との質問への主な回答をみると、「1．被害体験を分かち合うことができる」「9．事件に関する情報(裁判その他)が得られる」「2．他の参加者に気持ちを理解してもらえる」「10．他の参加者と、困ったこと・支えになったことに関する意見交換ができる」の順に多い（被害者個人・問4）。

職員等に対して、「自助グループが参加者に与える良い影響として、どのようなものがあると思われるでしょうか」（複数回答）との質問への主な回答をみると、「1．被害体験を分かち合うことができる」「2．他の参加者に気持ちを理解してもらえる」の次に、「3．喜怒哀楽といった感情をそのままに話ができる」「10．他の参加者と、困ったこと・支えになったことに関する意見交換ができる」が同数となっている（職員等・問4）。

被害者個人の回答と職員等の回答とを比べると、9．については被害者個人の回答では順位が高くなっているほか、3．については、職員等の回答で順位が高くなっている。

これらに関して、被害者個人、職員等及び被害者団体に対する、複数の自由記述の質問に対する回答で、自助グループへの参加のメリットに関するものと考えられる意見を整理すると、おおむね次のように区分できる。

被害者のことを話すことができる安心感

仲間がいることを実感できる安心感

支援されているという安心感

自分と向き合い、気持ちを整理できる機会

その他安心して話し、感情を出すことができる安心感

社会や他の被害者等の役に立つことができることを実感できる機会

行政の仕組みの把握

【今後の方向性】

被害者個人が自助グループに参加することについては、被害者個人や職員等のアンケート結果にみられるように、被害者個人の孤独感や孤立感の改善、気持ちのつらさや悲しみの改善などの

気持ちの変化がみられ、よい影響が与えられると認められることから、こうした回答を参加者の声として活用するなどして、自助グループ活動の周知を図ることが効果的であると考えられる。また、これらの回答を、自助グループの運営に生かすことも考えられる。

(2) 被害者が自助グループに参加したことで悪かったこと等に関すること

職員等に対する、「自助グループへの参加者が、参加したことでわるかったとよく聞くもの」(複数回答)との質問への主な回答をみると、「1. 気持ちのつらさや悲しみが悪化した」「2. 孤独感や孤立感が悪化した」「4. 他人に対する信頼感が悪化した」の順に回答数が多い(職員等・問3)。

職員等の問3の回答と(1)の被害者個人の問3の回答については、回答方法が異なることから、一概にはいえないものの、同じ選択肢について比較すると、職員等の回答に比べ、被害者個人の回答の割合が低い。

職員に対する、「自助グループの参加者が参加できない・参加しない・参加をやめたことについて、どのような理由があると思われる」か(複数回答)との質問への主な回答をみると、「6. 所用により時間が合わないため」「1. 他の参加者の話を聞くと、つらい思いがよみがえる」「7. 体調が優れないことが多いため」「9. 参加者にとって自助グループの必要性が低くなっている」の順に多い(職員等・問7)。

被害者個人で、現在参加されていない方、また参加をやめた方、あるいは参加したくないという気持ちがある方に対する、「どのような理由で、そのようにお考えでしょうか」(複数回答)との質問への主な回答をみると、「3. 自助グループの運営について、ストレスを感じる時がある」「7. 体調が優れないことが多い」が同数で最も多く、以下「2. 他の参加者から、自助グループにふさわしくない話があった」「1. 他の参加者の話を聞くと、つらい思いがよみがえる」の順に多い(被害者個人・問6)。

被害者個人の回答と職員等の回答を比べると、6. や9. については職員等の回答では順位が高くなっているが、3. については被害者個人の回答では順位が高い。

これらに関して、被害者個人、職員等及び被害者団体に対する、複数の自由記述の質問に対する回答で、被害者が自助グループに参加して悪かったこと等に関するものと考えられる意見を整理すると、おおむね次のように区分できる。

自助グループになじまない理由

自助グループへの参加の効果に対する疑問等

経済的・身体的・精神的な観点からの参加の困難性に関する現状認識等

被害者等が安心できる場所を見つけるまでの苦労

専門的な知識等に関する要望意見

【今後の方向性】

及び では、被害者個人が自助グループに参加することにより、つらさや悲しみが悪化する、孤独感や孤立感が悪化するなどの回答が多くなっていることから、自助グループへの参加に当たっては、(1)のとおり、良い方向への気持ちの変化があるものの、悪い方向へも変化するそれがあるといえる。 の自由記述意見でも、まだ参加すべき時期ではないと考えている、回復に役立っているという実感が持てないなどの回答がある。これらの回答を踏まえると、被害者個人への自助グループの紹介の時期等について配慮等が必要と考えられる。

また、 で、他人に対する信頼感が悪化したとの回答、 の被害者個人の回答で、自助グループの運営についてストレスを感じる時があるとの回答がある。 の自由記述意見でも、自助グループに参加したことにより、周囲の者から二次被害を受けた、お茶を飲みながら話をする形式になじめないなど自助グループの運営方法等に関する課題がある。これらの課題について工夫がなされれば、自助グループへの参加について被害者の理解が得られやすいのではないかと考えられる。

及び の回答では、体調が優れないことが多いとの回答がある。 の自由記述意見の身体的・精神的な観点から自助グループへの参加が困難との回答をみると、精神的に落ち込んでいるとき、またそれに伴い体調不良となっているときは難しいとの意見があることから、被害者団体や支援団体において被害者個人への精神的なケアを行うなどの工夫をすることが考えられる。

また、親の介護や子どもの世話のため参加しにくいなどの課題があることから、被害者個人の自助グループに参加しやすい環境づくりに配慮することが考えられる。

さらに、(1)のとおり、被害者個人が自助グループの良い面として考えていることのうち、「 9 . 事件に関する情報(裁判その他) が得られる」との回答があり(被害者個人・問 4)、自由記述においても、行政の仕組みを把握できてよかった、法律のことがよく分からないので、専門的な知識・知恵がつくような内容もほしいとする回答がある一方、最近では裁判の話ばかりで、あまり話を聞きたくない時もあり、だんだん足が遠のいたなどの意見もある。被害者個人によって、自助グループ活動に求めるものが異なることから、被害者個人が、自身の自助グループ活動への参加目的に合わせて選択できるよう、グループ数が増加することが望ましい。(「 8 . 自助グループの規模等に関する事」参照)

(3) 自助グループへの参加と家族との関係に関する事

被害者個人、職員等に対する複数の自由記述の質問に対する回答で、被害者等の自助グループへの参加と家族関係に関するものと考えられる意見を整理すると、おおむね次のように区分できる。

家族関係と自助グループへの参加の困難性・容易性に関する現状認識

自助グループへの参加が家族間に及ぼす効果に関する現状認識

【今後の方向性】

自由記述意見の中には、被害者個人と家族との間で、自助グループへの参加に対する考え方や被害の受け止め方が異なることから、自助グループへの参加が困難となるなどの回答がある。他方、自助グループへの参加について、家族の協力や理解が得られているとの回答もある。自助グループへの参加について、家族の理解や協力が得られる場合には、家族間で感情を共有できたり、家族間の会話が増えたりしているなどの回答がある。

これらのことから、自助グループへの参加を容易にするとともに、被害者個人とその家族の間の精神的な回復に資するよう、自助グループへの参加について、家族の理解と協力を得られやすいような情報提供その他の対応について工夫することが望ましい。

2. 自助グループへの参加者の募集・自助グループの周知等に関する事

(1) 自助グループへの参加者が少ない要因・増加した要因に関する事

自助グループへの参加者が少ない要因に関する事

被害者団体に対する、「参加者が少ないことについて、どのような要因がありますか」(複数回答)との質問への主な回答をみると、「1. 新規の被害者からの連絡がない」が多く、「4. 自分の体験を他者に話すことに抵抗がある者が多い」「5. 他者の体験を聞くことに抵抗のある者が多い」「6. 時間などの日程調整があわない」が同数となっている(被害者団体・問14)。

支援団体に対する同じ質問への主な回答をみると、「6. 時間などの日程調整があわない」「1. 新規の被害者からの連絡がない」の順に多く、「3. 通常の相談をしている被害者は、他者との関わりを持つことに抵抗のある者が多い」「4. 自分の体験を他者に話すことに抵抗がある者が多い」「5. 他者の体験を聞くことに抵抗のある者が多い」が同数となっている(支援団体・問14)。

また、5のとおり、被害者団体及び支援団体に対する、「自助グループを運営する上での課題で主なもの」との質問に関する回答でも、「2. 参加者が少ない」「3. 新規参加者が少ない」が上位を占めている。職員等に対する、「自助グループを運営する場合の課題としては、どのようなものがあるか」との質問への主な回答をみると、「1. 参加者が少ない」の回答が最も多くなっている。

自助グループへの参加者が増加した要因に関する事

被害者団体で自助グループへの参加者が増加したものに対する、「増加した要因として考えられる施策はどのようなものでしょうか」(複数回答)との質問への主な回答をみると、「8. 被害者による人脈により人が集まるようになった」「5. 自助グループの開催場所が固定できた」の順に多い(被害者団体・問21)。

支援団体に対する同じ質問への主な回答をみると、「2. 他の団体との連携・意見交換を活発にした」「8. 被害者による人脈により人が集まるようになった」の順に多く、次に「1. 早期援助団体に指定された」「6. 研修制度が充実し、職員の資質が向上した」が同数となっている(支援団体・問21)。

【今後の方向性】

で、自助グループへの参加者が少ない要因については、被害者団体及び支援団体とも、新規の被害者からの連絡がないとの回答が上位となっている。

で、自助グループの参加者が増加した要因としては、被害者団体及び支援団体に共通するものとして、被害者の人脈が挙げられている。また、支援団体では、早期援助団体として指定されたことも要因として挙げられている。

これらのことから、参加者の増加を図るためには、被害者団体や支援団体が、交通事故被害者に対して自助グループの周知を図る機会を得ることが有効と考えられる。こうした機会を得ることも含めて、参加者の増加に向けた具体的な取組については、(2)のとおりである。

(2) 参加者の増加に向けた対応等に関すること

自助グループへの参加者を増加させることを意図して行っていること

被害者団体に対する、「参加者を増加させることを意図して、どのような対応をおこなっているか」(複数回答)との質問への主な回答をみると、「1. 関係団体の広報誌で開催を周知している」「2. パンフレットなどを増刷して、幅広く配付するようにしている」「5. 連絡先のわかる被害者のうち自助グループへの参加が適当と思われる方に限って、自助グループへの参加を呼びかける手紙・はがき等を送付している」「7. 開催日時について、工夫している」が同数となっている(被害者団体・問15)。

支援団体に対する同じ質問への主な回答をみると、「1. 関係団体の広報誌で開催を周知している」が最も多く、次に「2. パンフレットなどを増刷して、幅広く配付するようにしている」「7. 開催日時について、工夫している」が同数となっている(支援団体・問15)。

自助グループへの参加の気持ちを促すために有効であったもの等に関すること

職員等に対する、「自助グループへの参加の気持ちを促すために、有効であったと思われるもの」(複数回答)との質問への主な回答をみると、「9. 自助グループを運営している団体から、自助グループに限らず、いろいろな連絡がある」「4. 警察等の行政の担当者から直接参加を促される」「1. 自治体などの広報誌に案内が掲載されている」の順に多い(職員等・問9)。

他方、職員等に対する、「自助グループへの参加の気持ちを促すために、有効ではないと思われるもの」(複数回答)との質問への主な回答をみると、「6. 自助グループ運営団体から、何度も、連絡がある」「8. 自助グループに参加している被害者から、何度も、連絡がある」が同数で最も多く、次に「2. TVやラジオなどの公共放送で流れている」「3. 新聞に案内が掲載されている」が同数となっている(職員等・問10)。

被害者個人に対する、「ご自身が自助グループへ参加するに当たって、どの程度有効だったでしょうか。ご自身が体験されていない項目については、もしあったらどのように有効だと思われるか」(複数回答)との質問について、自治体などの広報誌に案内が掲載されている、TVやラジオなどの公共放送でながれている、新聞に案内が掲載されている、警察の担当者から直接

紹介される、（警察以外の）行政の担当者から直接紹介される、自助グループ運営団体（被害者の会、犯罪被害者支援センター等）から、1、2回、連絡がある、自助グループ運営団体から、何度も、連絡がある、自助グループに参加している被害者から、1、2回、連絡がある、自助グループに参加している被害者から、何度も、連絡がある、自助グループを運営している団体から、自助グループにかかわらず、いろいろな連絡がある、の10項目について、それぞれ回答を求めた。

その結果、いずれも「1. とても有効である」「2. まあまあ有効である」（以下、本項において「有効」と総称する。）との回答の割合の合計は、「全く有効ではない」「あまり有効ではない」（以下、本項において「有効でない」と総称する。）との回答の割合の合計に比べて高い。しかしながら、「有効でない」に「どちらでもない」の回答の割合を加えると、やでは、「有効」の回答を上回っている（被害者個人・問8）。

これらに関して、被害者個人、職員等及び被害者団体に対する、複数の自由記述の質問に対する回答で、自助グループへの参加（参加者の募集）等に関するものと考えられる意見を整理すると、おおむね次のように区分できる。

- 自助グループへの参加（参加者募集）に関する現状認識
- 自助グループの周知に関する要望意見
- 自助グループの周知方法に関する要望意見等
- 主催者等からの連絡・働き掛け
- 参加者の参加の意思への配慮
- 被害者に対する自助グループの紹介の時期
- 支援者や参加者等の直接支援等の現状
- その他の参加（参加者募集）に関する要望意見
- 支援センターの周知に関する要望意見
- 支援活動の充実による信頼感の醸成に関する要望意見
- 支援センター等との信頼感に関する現状認識
- 自助グループへの参加に当たってのセンターの信頼感の醸成に関する要望意見
- インターネットの発展に伴う活用の可能性

【今後の方向性】

及び から、被害者団体及び支援団体とも、関係団体の広報誌で開催を周知する、パンフレットを作成して配付する、自助グループを運営している団体からの様々な連絡、行政からの参加の案内及び自治体などの広報誌の案内などの対策が上位となっているが、それ以外の取組についても行われている。の被害者個人の回答でも、それぞれの取組について、肯定的な評価がなされている。

自由記述意見の中には、まず、自助グループへの参加（参加者募集）に関して、被害者の実情

や支援の必要性について理解している人が少ない、また、自助グループの活動が知られていない、遺族等と十分に接触が図れないなどの現状が挙げられている。

こうした現状を踏まえ、自助グループ活動の周知を図る必要がある。周知に当たっては、自助グループとは何かを周知するとの回答のほか、1(1)のように、自助グループに参加することにより、現在よりも生活に希望が持てること、及び互いに支え合う仲間がいることを周知する、参加することで、様々な情報が得られ、気持ちが癒されることを周知すること等の回答があることから、こうした回答に沿って、自助グループ活動の周知を図ることが効果的と考えられる。

自助グループ活動の周知方法については、警察その他の関係機関・団体等から広報や紹介により周知することや、家族、支援者からの薦めが必要との意見がある。特に、関係機関・団体からの広報等については、現在実施されており、効果的であることから、更に関係機関・団体に対して積極的な取組がなされるよう要望等を行うことが望ましい。併せて、自助グループを運営している団体から、自助グループに限らず、いろいろな連絡があることも有効性が高いと認められていることから、被害者に対して自助グループの周知を図るためには、こうした連絡方法を取ることも望ましい。

また、参加者の声を紹介することや、自助グループ同士の連携や情報交換が大切であるなどの回答もある。特に主催者等からの連絡や働き掛けの効果も認められる。これらの回答を踏まえ、自助グループ活動の周知方法について工夫することが望ましい。

反面、被害者個人に対する問8中、自助グループ運営団体から、何度も、連絡がある、自助グループに参加している被害者から、何度も、連絡があるについて、有効でない」に「どちらでもない」の回答の割合を加えると、やでは、「有効」の回答を上回っており、自助グループへの参加の働き掛けが強制的にならないようにすることとの回答があることから、自助グループへの参加の働き掛けに当たっては、参加を強制されるとの受け止めがなされないよう配慮することが必要と考えられる。

また、被害者個人に対して自助グループ活動への参加を紹介する時期については、被害直後よりも一定期間を経過してからの方が望ましいとの回答がある。1(2)でも、被害者個人が自助グループになじめない理由として、まだ参加すべき時期ではないと考えているなどの回答があることから、紹介の時期についても、工夫することが望ましい。

他方、自助グループ活動の周知等に当たっては、被害者団体や支援団体による支援活動を充実することにより、被害者個人との信頼関係を構築することが必要又は効果的との回答がある。被害者団体や支援団体においては、これまでも支援活動が行われているが、自助グループ活動への理解と参加を促し、被害者の精神的回復を図る観点からも、今後も被害者等に対する支援活動等が必要と考えられる。

なお、インターネットによるサポートを利用する者がいるとの回答がある。自助グループへの参加が困難な理由として、1(2)(3)では親の介護や子どもの世話のため、3では日程調整がつかないため、4では開催場所からの距離が遠いため、8では自助グループの数が少ないためなどが挙げられている。こうした課題に対して、4のようにサテライト式の自助グループの開催の

ほか、インターネットによるサポートの活用可能性を検討することも考えられる。

3. 自助グループの開催日時に関すること

被害者団体に対する、「自助グループの開催日時は、いつでしょうか。平成20年（暦年）の1年間で開催の実績があるところに を付けてください。なお、開始時間を基準に回答してください」との質問への主な回答をみると、午前中（正午前まで）に開催しているのは、水曜日が多く、次に金曜日であった。午後（12時から18時）については、水曜日、土曜日、金曜日の順に多い。夜間（18時以降）については、無回答であった（被害者団体・問6）。

支援団体に対する同じ質問への主な回答をみると、午前中（正午前まで）に開催しているのは、月曜日と日曜日が同数で、次に火曜日であった。午後（12時から18時）については、日曜日、土曜日の順に多く、月曜日、水曜日、木曜日、金曜日が同数であった。夜間（18時以降）については、日曜日であった（支援団体・問6）。

1（2）で、職員に対する、「自助グループの参加者が参加できない・参加しない・参加をやめたことについて、どのような理由があると思われる」か（複数回答）との質問への主な回答をみると、「6. 所用により時間が合わないため」が最も多く（職員等・問7）、被害者個人に対する質問でも、同じ回答が挙げられている（被害者個人・問6）。

また、2（1）でも、被害者団体に対する、「参加者が少ないことについて、どのような要因がありますか」（複数回答）との質問への主な回答をみると、「6. 時間などの日程調整があわない」が挙げられており（被害者団体・問14）、支援団体に対する質問でも、「6. 時間などの日程調整があわない」が最も多い（支援団体・問14）。

さらに、5（1）の被害者団体に対する、「自助グループを運営する上での課題で主なもの」（複数回答）との質問への主な回答をみると、「9. 他の支援業務と重なるなど、日程調整が難しい」との回答があり（被害者団体・問11）、支援団体でも同じ回答がある（支援団体・問11）。

これらに関して、被害者個人、職員等に対する、複数の自由記述の質問に対する回答で、自助グループの開催日時等に関するものと考えられる意見を整理すると、おおむね次のように区分できる。

平日の開催に関する現状認識

土日開催に関する現状認識

その他日程調整に関する現状認識等

自助グループの開催頻度に関する要望意見

【今後の方向性】

の開催日時の現状に関して、の日程調整が合わないなどの回答がある。自由記述意見の中でも、仕事に就いている方では平日の開催については参加が困難であり、土日開催を希望するとの意見がある。また、参加者の都合を確認して開催日時を決めてほしいなどとの意見がある。ま

た、いつでも自由に参加できるようにしてほしい、定期的に開催されていることとの意見もある。これらのことを踏まえ、開催日時については、運営側の体制・会場確保等の事情や自助グループの運営方針等もあるものの、可能な限り被害者個人が参加しやすいような配慮をすることが望ましい。

4．自助グループの開催場所に関すること

被害者団体に対する、「自助グループの開催場所は、どこ」か（複数回答）との質問への主な回答をみると、「2．他の公共の会議室」「4．関係者の自宅」の順に多く、「1．貴団体の会議室」「3．民間の会議室」が同数となっている（被害者団体・問5）。

支援団体に対する同じ質問への主な回答をみると、「1．貴団体の会議室」「2．他の公共の会議室」「3．民間の会議室」の順に多い（支援団体・問5）。

また、職員等に対する、「自助グループを運営する場合の課題としては、どのようなものがあるか」（複数回答）との質問への主な回答をみると、「6．会場確保が困難である」との回答がある（職員等・問6）。

これに関して、被害者個人、職員等、被害者団体及び支援団体に対する、複数の自由記述の質問に対する回答で、自助グループの開催場所に関するものと考えられる意見を整理すると、おおむね次のように区分できる。

開催施設に関する現状認識

開催施設に関する要望意見

開催場所の交通の利便性に関する現状認識・要望意見

参加者の居住地からの距離に関する現状認識・要望意見

地方での開催に関する現状認識

【今後の方向性】

で、自助グループの開催場所について、被害者団体及び支援団体とも、それぞれ当該団体の会議室、他の公共の会議室、民間の会議室がそれぞれ挙げられており、被害者団体では、関係者の自宅との回答もある。他方、のとおり、会場確保が困難であるとの回答もある。

自由記述意見の中には、開催場所について、犯罪被害者支援センターのほか、民間の会議室、公共の学習室、大学のカウンセリングルームを使用しているとの回答がある。また、犯罪被害者支援センターについても会議室の大きさ等の課題があるとの回答が挙げられるほか、同センター以外の場所を開催場所とすることについては、時間の制限に伴う問題等が挙げられる。また、開催場所についての要望意見では、公共施設であると安心できるとの回答や、気軽に参加できること、家庭的で心が和むこと、静かであること、多くの人の目につかないこと等の回答が挙げられる。

そのほか、開催場所について、交通の利便性や参加者の居住地からの距離に関する現状認識や要望、意見に関しては、交通の便の良いところで開催することが必要であること、開催場所が参加者の居住地から遠い場合には参加が困難となること等の認識のほか、サテライト的なものがないかとの意見等が挙げられる。

これらの回答を踏まえ、自助グループの開催場所については、可能な範囲で、参加者が参加しやすい場所とするよう配慮することが望ましい。

また、開催場所が参加者の居住地から遠い場合に、サテライト的な開催場所を設けることについての回答があるが、これについても可能であれば対処することが望ましいが、そのほか、自助グループの数を増やす、インターネットによるサポートの活用を図るなどの可能性もあると考えられる。

5．自助グループの運営方法等に関すること

自助グループを運営する上での課題に関すること

被害者団体に対する、「自助グループを運営する上での課題で主なもの」(複数回答)との質問への主な回答をみると、「2．参加者が少ない」「3．新規参加者が少ない」が同数で最も多く、次に「6．参加者の負担が重い」「10．文化的・地理的・地域的な問題がある」が同数となっている(被害者団体・問11)。

支援団体に対する同じ質問への主な回答をみると、「2．参加者が少ない」「3．新規参加者が少ない」「10．文化的・地理的・地域的な問題がある」の順に多い(支援団体・問11)。

職員等に対する、「自助グループを運営する場合の課題としては、どのようなものがあるか」(複数回答)との質問への主な回答をみると、「1．参加者が少ない」「4．ファシリテーターとなりうる人材が不足している」「3．全体としてスタッフが不足している」の順に多い(職員等・問6)。

これらのうち、参加者(新規参加者)が少ないことに関する課題への対応については、2(3)を参照。それ以外の課題については、後述する。

自助グループを運営する上での問題に関すること

被害者団体に対する、「自助グループを運営する上で、以下のような問題はあるか」(複数回答)との質問への主な回答をみると、「1．参加者同士の話し合いの中で傷つくことがある」「6．会の進行を妨げるなどの問題行動をとる参加者がいる」の順に多く、次に「2．他人の話を聞くことで、自己の体験がフラッシュバックするなどの苦痛な症状が出る」「3．話をする時間が十分に与えられない」が同数となっている(被害者団体・問12)。

支援団体に対する同じ質問への主な回答をみると、「2．他人の話を聞くことで、自己の体験がフラッシュバックするなどの苦痛な症状が出る」「1．参加者同士の話し合いの中で傷つくことがある」「5．いつも同じメンバーで、マンネリとなっている」の順に多い(支援団体・問12)。

また、1(2)のとおり、職員等に対する、「自助グループへの参加者が、参加したことでわかったとよく聞くもの」(複数回答)との質問については、「1．気持ちのつらさや悲しみが悪化

した」「2．孤独感や孤立感が悪化した」の回答数が多い(職員等・問3)。また、職員に対する、「自助グループの参加者が参加できない・参加しない・参加をやめたことについて、どのような理由があると思われる」か(複数回答)との質問について、「1．他の参加者の話を聞くと、つらい思いがよみがえる」が多いほか、「2．自助グループにふさわしくない話をする参加者がいる」「3．自助グループの運営について、ストレスを感じることもある」との回答がある(職員等・問7)。被害者個人に対する同様の質問でも、「3．自助グループの運営について、ストレスを感じる時がある」「2．他の参加者から、自助グループにふさわしくない話があった」「1．他の参加者の話を聞くと、つらい思いがよみがえる」との回答が多い(被害者個人・問6)。

自助グループを運営する上での問題に対する対応に関すること

被害者団体に対する、「問12のような問題に対し、ストレスの要因に対して、どのような対応を行っていますか、又は行うべきだと思いますか」(複数回答)との質問への主な回答をみると、「1．自助グループ内でルールを定めた」「2．新しく自助グループに参加する方に対しては、事前に面接を行い、参加不参加の判断を行うようにした」が同数で最も多く、次に「3．自助グループの活動目的を毎回確認し、参加者間で共有できるようにした」となっている(被害者団体・問13)。

支援団体に対する同じ質問への主な回答をみると、「3．自助グループの活動目的を毎回確認し、参加者間で共有できるようにした」「2．新しく自助グループに参加する方に対しては、事前に面接を行い、参加不参加の判断を行うようにした」「1．自助グループ内でルールを定めた」の順に多い(支援団体・問13)。

職員等に対する、「以下の事項について、自助グループに参加しやすくするのに、有効であったと思われるものはどれか」(複数回答)との質問への主な回答をみると、「5．同じ団体で、裁判や生活支援などの必要な手続に関する相談を受けてくれる」「6．同じ団体で、付き添いなどの直接的な支援を行ってくれる」の順に多く、次に「3．自助グループの参加の前に面接がある」「4．同じ団体で、精神的なケアに関する専門家に相談できる」が同数となっている(職員等・問12)。

自助グループに参加しやすくするのに有効でないこと

職員等に対する、「以下の事項について、自助グループに参加しやすくするのに、有効ではないと思われるもの」(複数回答)との質問への主な回答をみると、「8．犯罪にこだわらず、なるべく大人数で行う」「3．自助グループの参加の前に面接がある」「2．自助グループの運営について、最初に読み上げるルールが定められている」の順に多い(職員等・問13)。

被害者個人に対する、「以下の事項について、ご自身が自助グループに参加する上でどの程度有効だったでしょうか？もしご自身が体験されていない項目については、もしあったらどのように有効だと思われるか」との質問について、自助グループの終了後に心の整理のための時間が設定されている、自助グループの運営について、最初に読み上げるようなルールが定められている、自助グループの参加の前に面接がある、同じ団体で、精神的なケアに関する専門家に相

談できる、同じ団体で、裁判や生活支援などの必要な手続に関する相談を受けてくれる、同じ団体で、付き添いなどの直接的な支援を行ってくれる、参加者間で費用負担などのルールが明確、犯罪にこだわらず、なるべく大人数で行う、犯罪毎に自助グループが細分化されている、地域の結びつきが強いところであっても、参加していることが、近所に知られないという保証がある、の計10項目について、それぞれ回答を求めた。そのうちから6項目の結果をみると、いずれも「1. とても有効である」「2. まあまあ有効である」(以下、本項において「有効」と総称する。)との回答の割合の合計は、「全く有効ではない」「あまり有効ではない」(以下、本項において「有効でない」と総称する。)との回答の割合の合計に比べて高い。しかしながら、「有効でない」に「どちらでもない」の回答の割合を加えると、では、「有効」の回答を上回っている(被害者個人・問10)。

以上の回答結果を総合すると、自助グループへの参加に当たり、
他人の話を聞くことで、自己の体験がフラッシュバックするなどの苦痛な症状が出る
参加者同士の話し合いの中で傷つくことがある
会の進行を妨げるなどの問題行動をとる参加者がいる
話をする時間が十分に与えられない

などの問題が挙げられており、これらの問題への対処方策については、

自助グループの終了後に、心の整理のための時間が設定されている

自助グループ内でルールを定めた

新しく自助グループに参加する方に対しては、事前に面接を御行い、参加不参加の判断を行うようにした

自助グループの活動目的を毎回確認し、参加者間で共有できるようにした

など自助グループの運営方針を定めるとともに、運営上の工夫をしていることが挙げられる。

これらに関して、被害者個人、職員等、被害者団体及び支援団体に対する、複数の自由記述の質問に対する回答で、自助グループの運営方針等に関するものと考えられる意見を整理すると、おおむね次のように区分できる。

運営方針や運営マニュアルの整備に関する要望意見

ルールの運用に当たった現状認識

運営に関する打合せ等とその効果に関する現状認識

参加希望者への面接の実施

参加者の言動に係る現状認識

事務局等の言動に係る現状認識

支援員等の対応に関する要望意見

運営方針や運営方法に関する要望意見

参加者の発言のしづらさ等に関する要望意見

参加者に対する配慮に関する要望意見

専門家によるカウンセリング等の必要性に関する要望意見

参加者の参加容易性向上の要因

参加の困難性に関する現状認識

その他

【今後の方向性】

の問題点及びそれらの問題への対処方策のほか、自由記述意見の中には、自助グループの運営マニュアルや方針・ルールづくりについて、これらを作成することが必要であるとの回答が挙げられるが、ルールが守られないとの回答もある。

また、参加者の言動について、中には、他の被害者を受け入れない、自分の意見を否定されるなどの回答があるほか、事務局等の心ない言動により二次被害を受けたなどの回答もある。さらに、自助グループの運営方針や運営方法に関して、自助グループの統一を保つことができる人が参加すること、自分の意見を同じ立場で聴いてくれる環境があること、一人の者が多く時間を使って話をしない、故人の写真等を持ち込まないことなどの回答がある。これらのことから、自助グループへの参加希望者に対して面接を実施することが必要との回答がある。

そのほか、参加者によっては、参加者の発言のしづらさや、自助グループへの参加を知られたくないなどの回答もある。

自助グループの運営に当たっては、これらの意見を踏まえて、運営マニュアルや方針の作成等も含め、自助グループを円滑に進行し、できるだけ多くの参加者が参加してよかったと感じられるような運営に努めることが必要と考えられる。自助グループの終了後に、担当者等による振り返りの機会を設けているとの回答もあり、こうした取組を行うことも望ましい。また、そのためには、支援者の育成や、他の自助グループとの情報交換等の機会も有効と考えられる。

また、自助グループに参加することにより、他人の話を聞くことで、自己の体験がフラッシュバックするなどの苦痛な症状が出るとの回答があることから、自助グループの終了後に心の整理のための時間が設定されていると考えられるが、更に心のケアを取り入れてもらいたい、個人的な人間関係の苦勞は、個別にカウンセリングを行い、苦しみを和らげたいなどの回答もあることから、この点についても何らかの配慮がなされることが望ましい。

6. 事務局、ファシリテーター等の支援者に関すること

5のとおり、職員等に対する、「自助グループを運営する場合の課題としては、どのようなものがある」か(複数回答)との質問について、「4. ファシリテーターとなりうる人材が不足している」「3. 全体としてスタッフが不足している」の回答が多い(職員等・問6)。また、被害者団体に対する、「自助グループを運営する上での課題で主なもの」(複数回答)との質問について、「5. ファシリテーター・職員の対応に問題がある」「8. 関係者・関係職員に対する研修を行う技術力・能力が十分でない」の回答はない(被害者団体・問11)が、支援団体では、8.及び5.

の順に回答が多い(支援団体・問11)。

被害者団体に対する、「ファシリテーター・職員の対応の問題として多いのは、どのようなことか(複数回答)との質問について、「7.その他」で1件であった(被害者団体・問16)。

支援団体に対する同じ質問への主な回答をみると、「1.被害者の精神的状況に関する理解不足」が最も多く、次に「2.自助グループで定めたルールどおりに運営ができていない」「3.参加者の心情を傷つけるような発言がある」が同数となっている(支援団体・問16)。

被害者団体に対する、「ファシリテーター・職員の対応の問題を解決するために有効な方策」(複数回答)との質問への主な回答をみると、「2.研修の実施」「5.他の職員による参加者への面談実施等のサポート」が同数で最も多く、次に「1.複数のファシリテーターを参加させる」「3.他の団体による研修への派遣」「4.職員による勉強会の実施」が同数となっている(被害者団体・問17)。

支援団体に対する同じ質問への主な回答をみると、「2.研修の実施」「3.他の団体による研修への派遣」「4.職員による勉強会の実施」の順に多い(支援団体・問17)。

これに関して、被害者個人、職員等、被害者団体及び支援団体に対する、複数の自由記述の質問に対する回答で、事務局、ファシリテーターに関するものと考えられる意見を整理すると、おおむね、次のように区別できる。

ファシリテーターに関する現状認識・要望意見等

ファシリテーター側の現状認識・取組等

ファシリテーター等育成の困難性に関する現状認識・育成に関する要望意見

支援員等の負担に関する現状認識

支援員等の自己研鑽の必要性に関する要望意見

専門家育成の必要性に関する要望意見

参加者の自己研鑽の必要性

【今後の方向性】

から で、支援団体における自助グループの運営に関する課題として、ファシリテーターの人材が不足しており、ファシリテーターの問題の要因として、被害者の精神的状況に関する理解不足、自助グループで定めたルールどおりに運営ができていない、参加者の心情を傷つけるような発言がある、などの回答がある。そして、その解決方策としては、研修の実施等がある。

の自由記述意見の中には、ファシリテーターが自助グループの司会進行役であり、その力量次第で自助グループに参加しにくい状況となる、全ての被害者の立場を常に配慮できることが重要である、様々な意見や考えを持つ集団を上手に扱う技術が必要であるなどの回答があり、高い能力を求められている。ファシリテーターとしても、非常に神経を使う立場であることを認識し

ており、ファシリテーターの質を保つための話し合いを行うなどの取組をしているとの回答がある。しかしながら、ファシリテーターが不足しているところもあり、ファシリテーターの育成の必要性に関する回答があるとともに、育成の困難性についての回答もある。また、ファシリテーターのメンタルヘルスも大切であるとの回答もある。

支援員についても、自己研鑽に励む必要があるとの回答がある一方で、支援員に負担がかかりすぎている、支援員に対する研修が必要であるとの回答がある。

こうした現状や要望意見を踏まえ、ファシリテーターや支援員が、よりよい自助グループ活動を行うことができるよう、研修の機会を設けるなど必要な支援に取り組む必要があると考えられる。

7. 自助グループの活性化に関すること

被害者団体に対する、「自助グループを活発にするために、実施しているもの」(複数回答)との質問への主な回答をみると、「7.参加があるかどうかにかかわらず、開催を通知した場合には、必ずファシリテーターが待機するようにしている」「5.連絡先の分かる被害者のうち自助グループへの参加が適当と思われる者に限って、自助グループへの参加を呼びかける手紙・はがき等を送付している」の順に多い(被害者団体・問22)。

支援団体に対する同じ質問への主な回答をみると、「2.参加者が守るべきルールを作成している」「7.参加があるかどうかにかかわらず、開催を通知した場合には、必ずファシリテーターが待機するようにしている」の順に多く、次に「1.実施マニュアルを作成し、それに従って行っている」「5.連絡先の分かる被害者のうち自助グループへの参加が適当と思われる者に限って、自助グループへの参加を呼びかける手紙・はがき等を送付している」が同数となっている(支援団体・問22)。

これらのように、質問の選択肢については、2(3)の参加者の増加に向けた対応に関することや、5の自助グループの運営方法等に関することのいずれかに整理することができる。

これらに関して、被害者個人、職員等、被害者団体及び支援団体に対する、複数の自由記述の質問に対する回答で、自助グループの活性化方策に関するものと考えられる意見を整理すると、おおむね次のように区分できる。

- 他機関・団体・グループとの連携・情報交換の現状・要望意見
- 支援者や参加者等の他施設等への講師派遣等の現状
- 自助グループ内の活性化方策の現状・要望意見

【今後の方向性】

の回答については他の項目で記載していることから、自由記述意見を基に検討すると、これらの中では、自助グループにおいて、他機関・団体・グループとの相互の連携・情報交換ができているとの現状とともに、全国規模の研修会や交流会の開催の必要性等に関する回答がある。ま

た、自助グループ内で勉強会やレクリエーションの取組を実施しているとの現状や、イベント的な活動など楽しんで交流できる場を設けるとの回答もある。

また、自助グループにおいて特筆すべき点としては、支援者や参加者等が中・高校生を対象とした講演の実施、矯正施設からゲストスピーカーの要請、他機関やセンター等から講師派遣依頼があるなどの回答もある。

こうした活動も、自助グループ活動の活性化に資すると考えられることから、今後も取組が進められることが望ましい。

8. 自助グループの規模等に関すること

被害者団体に対する、「どのように自助グループを運営しているか」(複数回答)との質問への主な回答をみると、「1. 犯罪被害者等を対象として細分化しないで自助グループを運営している」「4. その他の方(自死遺族等)を対象とした自助グループを運営している」「3. 犯罪被害者等を対象として被害の程度(死亡、重傷等)毎に自助グループを運営している」の順に多い(被害者団体・問1)。

支援団体に対する同じ質問への主な回答をみると、「2. 犯罪被害者等を対象として犯罪毎に自助グループを運営している」「1. 犯罪被害者等を対象として細分化しないで自助グループを運営している」「3. 犯罪被害者等を対象として被害の程度(死亡、重傷等)毎に自助グループを運営している」の順に多い(支援団体・問1)。

被害者団体に対する、「貴団体が運営している自助グループの特徴はどのようなもの」(複数回答)との質問への主な回答をみると、「2. 個別面談を行った上で決定している」「1. 希望者すべてを受け入れることとしている」の順に多く、「3. 犯罪種別(交通事故、殺人、DV等)毎に分けている」「4. 被害の程度(死亡、後遺障害等)毎に自助グループを設定している」「6. 性別(男性、女性)毎の自助グループを設定している」「7. 罪種、本人、家族、成年、未成年、性別の区別なく、参加してもらっている」が同数となっている(被害者団体・問9)。

支援団体に対する同じ質問への主な回答をみると、「2. 個別面談を行った上で決定している」「3. 犯罪種別(交通事故、殺人、DV等)毎に分けている」の順に多く、次に「1. 希望者すべてを受け入れることとしている」「4. 被害の程度(死亡、後遺障害等)毎に自助グループを設定している」が同数となっている(支援団体・問9)。

5. のとおり、被害者個人に対する、「以下の事項で、ご自身が自助グループに参加する上でどの程度有効だったでしょうか。ご自身が体験されていない項目については、もしあったらどのように有効だと思われるか」との質問及び回答をみると、犯罪にこだわらず、なるべく大人数で行うことについては、「1. とても有効である」「2. まあまあ有効である」(以下、本項において「有効」と総称する。)との回答の割合の合計は、「全く有効ではない」「あまり有効ではない」(以下、本項において「有効でない」と総称する。)との回答の割合の合計に比べて低く、犯罪

毎に自助グループが細分化されているについては「有効」との回答の割合の合計が「有効でない」との回答の割合の合計に比べて高い(問10)。

職員等に対する、「自助グループの参加者が参加できない・参加しない・参加をやめたことについて、どのような理由があると思われるか(複数回答)との質問について、「10.他の犯罪の被害にあった方と意見交換することになる」「11.被害の程度・状況が異なる方と意見交換することになる」との意見もみられる(職員等・問7)。被害者個人でも、「11.被害の程度・状況が異なる方と意見交換することになる」との意見もみられる(被害者個人・問6)。

支援団体に対する、「自助グループを運営する上で、以下のような問題はあるか(複数回答)との質問でも、「4.交通事故以外の被害者と、気持ちが分かち合えない」との回答もみられる(支援団体・問12)。

支援団体に対する、「問12のような問題に対し、ストレスの要因に対して、どのような対応を行っていますか、又は行うべきだと思いますか(複数回答)との質問について、「8.交通事故被害者と他の犯罪被害者を分けて行うようにした」との回答がみられる(支援団体・問13)。

職員等に対する、「以下の事項について、自助グループに参加しやすくするのに、有効であったと思われるものはどれか(複数回答)との質問について、「9.犯罪毎に自助グループが細分化されている(交通事故、殺人、その他犯罪等)」との回答がみられ、これより少ないものの「8.犯罪にこだわらず、なるべく大人数で行う」との回答もみられる(職員等・問12)。

さらに、職員等に対する、「以下の事項について、自助グループに参加しやすくするのに、有効ではないと思われるもの(複数回答)との質問について、「8.犯罪にこだわらず、なるべく大人数で行う」との回答が最も多いが、「9.犯罪毎に自助グループが細分化されている(交通事故、殺人、その他犯罪等)」との回答もみられる(職員等・問13)。

以上のように、自助グループについては、交通事故被害者と他の犯罪の被害者とで細分化する方がよいとの回答が多い。

これらに関して、被害者個人、職員等、被害者団体及び支援団体に対する、複数の自由記述の質問に対する回答で、自助グループの規模等に関するものと考えられる意見を整理すると、おおむね次のように区分できる。

自助グループの規模が大きい又は小さいことに関する現状認識

自助グループの数が少ないこと等に関する現状認識

罪種別グループがないことに関する現状認識

罪種別の細分化に関する要望意見

その他自助グループの規模や細分化に関する現状認識等

【今後の方向性】

から では、自助グループの規模等のうち、罪種別グループの細分化の有無やこの細分化に関する考え方に関する質問が行われており、その結果、 のとおり交通事故被害者と他の犯罪の被害者として細分化する方がよいとの回答が多い。

の自由記述に関する意見では、罪種別の細分化に関する回答もあるが、それ以外に、規模の大小やグループの数、罪種別以外の細分化に関する回答もあることから、これらの点を基に検討する。

まず、自助グループの規模が大きい場合、自由に発言できる時間がない、定例会だけでは対処できないなどの回答があるが、規模が小さい場合、参加者が傷つくことも想定される、他の参加者の声を聞きたい、話したくても自ら話せない者には負担となるなどの回答がある。

グループ数が少ないこと等については、そのグループになじめない人は参加しない、ほかへ移りたいと望んでも難しい、近所の目が気になり出席しにくいなどの回答がある。

罪種別にグループを細分化することについては、様々な立場が一堂に会して話すことで、お互いの思いを確認し、共有することができているとの回答もあるが、他方で、交通事故被害者と他の犯罪被害者は同じ場では話にくい、明確に分けてほしいなどの回答もある。しかしながら、そのような希望があるものの、センター側の支援員不足により実現していないとの回答もある。

また、罪種別以外にも、子どもを亡くした方や兄弟を亡くした方別の細分化に関する要望意見があるほか、被害からの経過時間による細分化、被害者遺族と被害者本人別の細分化が設けられているなどの回答がある。

すべての交通事故被害者が、罪種別の細分化を望んでいるものではないと認められるが、可能な範囲での細分化がなされると望ましい。しかし、参加者が自助グループに参加して良かったと思うことができるような適正な規模であることと、自分に合った自助グループを選ぶことができるように努めることの方が望ましい。

9. 地域性に関すること

5 のとおり、被害者団体に対する、「自助グループを運営する上での課題で主なもの」(複数回答)との質問について、「10. 文化的・地理的・地域的な問題がある」がみられる(被害者団体・問 11)。支援団体でも「10. 文化的・地理的・地域的な問題がある」がみられる(支援団体・問 11)。

被害者団体に対する、「文化や地理などの要件により、地域的な問題がある場合、それはどのようなものか」(複数回答)との質問への主な回答をみると、「6. 参加するに当たって、移動に時間がかかる」が最も多く、次に「2. 被害者同士で集まることを、被害者が話しにくいことがある」「3. 何らかのイベント・会合に参加したことを、被害者が話しにくいことがある」が同数となっている(問 19)。

支援団体に対する同じ質問への主な回答をみると、「6. 参加するに当たって、移動に時間がかかる」「4. 回復のための活動をしていることを、親族や家族に、被害者が話しにくいことがある」

「 1 . 被害者支援センターに通うことを、被害者が話しにくいことがある」の順に多い(問 19)。

5 のとおり、被害者個人に対する、「以下の事項で、ご自身が自助グループに参加する上でどの程度有効だったでしょうか。ご自身が体験されていない項目については、もしあったらどのように有効だと思われるか」との質問及び回答のうち、地域の結びつきが強いところであっても、参加していることが、近所に知られないという保証があるについては、いずれも「 1 . とても有効である」「 2 . まあまあ有効である」(以下、本項において「有効」と総称する。)との回答の割合の合計は、「全く有効ではない」「あまり有効ではない」(以下、本項において「有効でない」と総称する。)との回答の割合の合計に比べて高い(問 10)。

職員等に対する、複数の自由記述の質問に対する回答で、地方では親類からの生活支援等で助かるが、意識や知識不足により二次被害を受ける場合があるなどの意見がある。

【今後の方向性】

及び から、まず、地域性に関する課題として、自助グループへの参加に当たって移動に時間がかかることや、自助グループへの参加等に関する周囲との兼合いが挙げられる。この点については、自助グループの数を増やして、被害者等が選択できるようにするほか、インターネットによるサポートの活用を図るなどの対処が考えられるが、対処するためには体制その他の問題も考えられることから、地域の実情等に応じて、工夫されることが望ましい。

また、 の自由記述意見で、親類の意識や知識不足により二次被害を受ける場合があることへの対処については、3に示したような、交通事故被害者の実情や支援の必要性及び二次被害の存在について周知を図ることが考えられる。

10 . 費用負担に関すること

被害者団体に対する、「諸経費(茶菓、配布物、通信費等)の費用はどなたが負担しているか」(複数回答)との質問への主な回答をみると、「 1 . 貴団体が負担」「 3 . 参加者の負担(参加費等を徴収などによる)」「 4 . 外部からの寄付金による」の順に多い(問 8)。

支援団体に対する同じ質問への主な回答をみると、「 1 . 貴団体が負担」「 3 . 参加者の負担(参加費等を徴収などによる)」「 4 . 外部からの寄付金による」の順に多い(問 8)。

これに関して、被害者個人、職員等、被害者団体、支援団体に対する、複数の自由記述の質問に対する回答で、費用負担に関するものと考えられる意見を整理すると、おおむね次のように区分できる。

費用の負担に関する現状認識

経済的支援等に関する要望意見等

【今後の方向性】

自助グループの開催に当たっては、の諸経費のほか、の自由記述意見のとおり、研修等に招く講師の費用の捻出が大変であるとの回答がある。では、この経費の負担については、賛助会員及びバザーによる収入をあてる、協力者が負担するなどの回答があるが、資金不足が問題であるとの回答がある。また、では、参加者が、県内には自助グループがないことから、他県の自助グループに参加しており、交通費がかかるなどの回答がある。

そのほか、経済的な支援についての回答がある。

自助グループの開催に伴う費用の負担については、解決が困難であると考えられるが、回答にもあるように、賛助会員等部外から協力を得ることが必要と考えられる。また、このためには、交通事故被害者の実情や支援の必要性、支援の一環としての自助グループ活動のメリット等について、周知を図ることが必要と考えられる。

・問題点と改善策

自助グループ実態把握調査結果について、項目ごとに整理した。

そのうち、被害者等が自助グループに参加することのメリット等に関することについては、交通事故被害者等に対する自助グループへの参加の働き掛けや、自助グループの活動を周知させるために有効と認められるほか、自助グループの運営方針等にも生かすことが可能と考えられる。

そのほかの項目については、自助グループの課題として取り扱うことが適当な回答が多かったが、今後、自助グループが、交通事故被害者等の精神的な回復等のためによりよいものとなるよう工夫する余地があることを示唆するものと考えられる。

他方、本事業では、これまで、交通事故被害者等が、交通事故により被った精神的被害からの回復を支援するための効果的な手法として、自助グループ活動の普及を図ることに重点を置き、自助グループの立ち上げ支援や研修を行うとともに、具体の自助グループ活動の運営方法、方針及び開催頻度等を決定する一助としてマニュアル及びビデオ等多くの教材を作成してきたところである。

今回の調査結果では、こうした本事業で開発し、進めてきた自助グループ活動の運営方法等について、肯定的な回答もある一方で、否定的な回答もあったことは、新鮮に感じられた。今回の調査結果については、本事業の成果として自助グループ活動が普及し、様々な地域、規模、参加者の構成及び運営方法等について多様性が求められるようになったことの証左と考えられる。

このように、自助グループ活動について多様性が求められていることに鑑みると、今後においても、自助グループ活動の普及・発展を図るためには、運営方法等について、それぞれの地域、規模、参加者に応じて、改善を図ることが効果的な場合もあると考えられる。そして、改善を図るに当たって、今回の調査結果を参照することが可能となると考えられる。

したがって、本章で検討した事項及び今後の方向性について、今後、何らかの方法で資料化し、地域の状況に即した対応によって自助グループ活動の発展に向け活用することができるようにすることが望ましい。